

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会



受賞おめでとうございます。

★令和4年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等が決定されました★

令和4年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等表彰団体は、安全就業優秀・優良シルバー人材センター等選定委員会において以下のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

受賞されたシルバー人材センター関係者の皆様、誠におめでとうございます。☆☆☆

【優秀賞】

- 柴田町シルバー人材センター（宮城県） 2度目の受賞
- 倉吉市シルバー人材センター（鳥取県） 2度目の受賞
- 柏崎市シルバー人材センター（新潟県）
- 敦賀市シルバー人材センター（福井県）
- 中野広域シルバー人材センター（長野県）
- 小松島市シルバー人材センター（徳島県）
- みやこ町シルバー人材センター（福岡県）
- 綾町シルバー人材センター（宮崎県）

【優良賞】

- 稚内市シルバー人材センター（北海道）
- 七飯町シルバー人材センター（北海道）
- 横浜市南事務所シルバー人材センター
- 横浜市港南事務所シルバー人材センター（神奈川県）
- 中能登町シルバー人材センター（石川県）
- 南越前町シルバー人材センター（福井県）
- 豊橋市シルバー人材センター（愛知県）
- 阿久比町シルバー人材センター（愛知県）
- 名張市シルバー人材センター（三重県）
- 姫路市シルバー人材センター（兵庫県）
- 防府市シルバー人材センター（山口県）
- 中間市シルバー人材センター（福岡県）
- 糸島市シルバー人材センター（福岡県）
- 大分市シルバー人材センター（大分県）

【優良連合賞】

- 徳島県シルバー人材センター連合会

★今月の事故★

1. 事故の概要（就業中）

剪定作業中、5段の脚立を使用して4段目で作業をしていたところ落下したとみられる。背骨、肋骨、腰骨を骨折しており、脚立が倒れた音を聞き駆け付けた隣人が救急車を呼び搬送された。（2ヶ月経った現在も入院中）

2. 事故の原因

安全帽、墜落制止用器具（安全带）未着用で単独での作業であった。
仕事を早く終わらせようと慌てていた。（事故発生時刻 17時30分）

3. 事故後の対応及び再発防止策

【センター】

- 安全委員会を開催し、事故状況を報告。
- 事務局だよりにより、全会員に事故に対する注意喚起を行い、安全帽の着用について徹底を図った。
- 安全就業パトロールを行った。

【連合本部】

- 安全帽着用の徹底を指導した。
- 脚立を使用する際は、安定する場所に置くこと、固定すること、最上段まで登らないことなどを今一度周知した。
- 単独での作業は事故が発生した際に発見が遅れ致命的な事故になりうることから、特に高齢の会員は単独作業とならないように周知した。
- 本件について、県内版安全就業ニュースを作成して全シルバー人材センターへ注意喚起を行い、安全就業パトロールを行う。
- 安全就業推進大会において、墜落・転落を中心とした安全対策について講話を行う。

4. 全シ協から

この事故については、剪定作業で最も欠かせない安全帽、墜落制止用器具（安全带）を装着していなかったこと、ひとりでの作業のため、発見が遅れ致命的な事故になりかけたこと、また、脚立については、地面同様の環境を作れていたかどうかなど、複数の要因が重なって起きたと考えられます。今回、頭部を打たなかったことは幸いでしたが、本能的に頭を守ろうとした結果、色々なところを骨折したとも考えられ、やはり、安全帽、墜落制止用器具（安全带）の装着は、必須です。

事故防止策で、例えば、安全作業チェックシートなどで剪定就業会員にヘルメット、墜落制止用器具（安全带）の有無、三脚脚立の固定状態などにチェックを入れ事務局へ提出することなどを行い、会員さんに「自分の安全は自分で守る」という意識を徹底してもらうことが重要です。さらに、職員や安全委員による安全パトロール（抜き打ち含む）を行い、安全帽、墜落制止用器具（安全带）の装着など、チェック項目を決め会員さんに安全就業の意識を高めてもらうことも重要であると思います。このような事故を起こさないように、センターとして今一度会員さんが安全、安心して就業できる環境についてお話し合い、再発防止の徹底をお願いいたします。

令和4年5月（令和4年度）事故速報

(1) 重篤事故

5月は、2件の重篤事故報告がありました。

5月までの累計で比較してみると、令和3年度の2件と同数となりました。

また、就業中・就業途上別でみると、就業中では令和3年度の1件と比して2件の増加となっており、就業途上については、令和3年度の1件と比して0件と減少となっています。

5月報告分までの累計

令和4年度累計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				令和3年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	2(0)	2(0)	0(0)	1(0)	1(0)	就業中	1	0	1	1	0	
就業途上	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	就業途上	1	1	0	0	1	
計	2(0)	2(0)	0(0)	1(0)	1(0)	計	2	1	1	1	1	

5月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
1	男 78歳	就業中 (死亡)	2人1組で松を剪定していたところ、三脚脚立の上で作業をしていた会員が脚立から落下し、脚立下で支えていた当該会員に接触し、両名ともに意識を失ったようである。両名共搬送されたが一人は頸椎を損傷し40日余り経って死亡した。	×	×	—
2	女 89歳	就業中 (死亡)	事故現場は踊り場で通路のモップでの床拭き掃除中に起きた。清掃場所は段差も無く平坦な場所である。会員は、現場の従業員に倒れているところを発見され、4、5分会話をしたが、その後、意識を失い救急車を呼んだ。なお、原因は、目撃者もなく不明だが、急性硬膜下血腫であった。	—	—	—

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

5月は、就業中の事故22件、就業途上の事故7件と、合計29件であり、昨年度同月の22件と比して7件の増加となっています。また、男女別では、男性は1件の増加となっており、女性は6件の増加となっています。

5月までの累計で比較してみると、昨年度の39件と比して、本年度は41件と2件の増加となっています。就業中・就業途上別にみると、就業中は32件で4件の増加となっており、就業途上は9件で2件の減少となっています。男女別では、男性は1件の増加となっており、女性は12件で同数となっています。

令和4年度5月分

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)		
		5月	累計	5月	累計	5月	累計	5月	累計	
就業中	植木・樹木の剪定等	9(4)	14(11)	9(4)	14(11)	0(0)	0(0)	76	76	
	除草作業	1(4)	1(4)	0(3)	0(3)	1(1)	1(1)	78	78	
	屋内・屋外清掃作業	6(5)	7(7)	1(3)	2(4)	5(2)	5(3)	79	78	
	その他	6(3)	9(6)	5(3)	7(4)	1(0)	2(2)	79	79	
	計	22(16)	31(28)	15(13)	24(22)	7(3)	8(6)	78	78	
就業途上	交通手段	徒歩	1(2)	2(4)	0(1)	2(1)	1(1)	0(3)	67	64
		自転車	5(2)	5(4)	2(2)	2(2)	3(0)	3(2)	77	77
		バイク	1(2)	2(3)	1(1)	1(2)	0(1)	1(1)	82	76
		自動車	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	—	—
		計	7(6)	9(11)	3(4)	5(5)	4(2)	4(6)	76	74
合計		29(22)	40(39)	18(17)	28(27)	11(5)	12(12)	77	77	

()は令和3年度同月の発生件数

※「植木・樹木の剪定等」の事故の累計件数については、「男性会員の6ヶ月以上(180日)の入院報告」(4月報告分)1件を、重篤事故(5月報告分)として計上したので、その分(1件)を累計から差引きました。

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、**事故の有無にかかわらず**毎月8日までに必ず提出願います(平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済)。

※ **シルバー団体傷害保険の支払いが確定した事故については、速やかに「シルバー団体傷害保険に係る事故件数等報告書」により報告し、報告漏れがないよう願います。**

(3) シルバー派遣事業における労働災害報告の事故（休業1ヶ月以上）

3月は合計10件であり、前年同月の13件と比較して3件の減少となっています。また、男女別では、男性は4件の減少となっており、女性は1件の減少となっています。

今月は令和3年度分の確定月となります。本年度は127件となり前年度より9件増加、男女別の内訳は、男性が68件となり前年度より2件減少、女性が59件となり前年度より11件の増加となっています。

なお、3月に死亡事故はありませんでした。

令和3年度分（4月～3月）

仕事の型（中分類）	中分類コード	事故数（件）				男性（件）		女性（件）		平均年齢（歳）	
		3月	累計	3月	累計	3月	累計	3月	累計		
建築・土木・測量技術者	9	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	74	
その他の保険医療の職業	15	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	66		
社会福祉の専門的職業	16	1 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (0)	71	74		
教育の職業	19	0 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	—	71		
一般事務の職業	25	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—		
出荷・受付係事務員	27	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	—	—		
営業・販売関連事務の職業	28	0 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	—	71		
外勤事務の職業	29	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	66		
商品販売の職業	32	0 (0)	5 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (0)	—	71		
販売類似の職業	33	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	74		
営業の職業	34	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	74		
家庭生活支援サービスの職業	35	3 (1)	14 (12)	1 (0)	3 (2)	2 (1)	11 (10)	74	75		
介護サービスの職業	36	0 (0)	0 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (4)	—	—		
保健医療の職業	37	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—		
生活衛生サービスの職業	38	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—		
飲食物調理の職業	39	0 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	—	73		
施設・ビル等の管理の職業	41	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (0)	—	78		
その他のサービスの職業	42	0 (1)	8 (3)	0 (1)	3 (1)	0 (0)	5 (2)	—	73		
農業の職業	46	1 (0)	6 (1)	1 (0)	4 (1)	0 (0)	2 (0)	71	71		
生産設備制御・監視の職業 （金属材料製造）	49	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—		
金属材料製造、金属加工、金属 溶接・溶断の職業	52	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	75	75		
製品製造・加工処理の職業	54	0 (1)	2 (8)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	2 (7)	—	73		
機械組立の職業	57	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	78		
製品検査の職業	62	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—		
生産関連・生産類似の職業	64	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	—	75		
自動車運転の職業	66	0 (0)	3 (2)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	—	68		
建設の職業	71	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—		
採掘の職業	74	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	—	71		
運搬の職業	75	0 (0)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	—	70		
清掃の業務	76	1 (3)	18 (23)	0 (2)	8 (15)	1 (1)	10 (8)	76	74		
包装の職業	77	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	2 (0)	80	78		
その他の運搬・清掃・包装等の職 業	78	2 (6)	39 (47)	2 (4)	31 (34)	0 (2)	8 (13)	78	72		
計	—	10 (13)	127 (118)	5 (9)	68 (70)	5 (4)	59 (48)	75	72		

(4) シルバー派遣事業における通勤災害報告の事故(休業1ヶ月以上)

令和3年度は、合計28件で昨年度の41件から13件の大幅な減少となりました。通勤の型別では「転倒」が19件で、昨年度の28件から9件の減少となり、全体の68%を占めています。「交通事故(道路)」は8件で、昨年度の10件と比して2件の減少、その他「墜落・転落」、1件となっています。男女別の内訳は男性13件で1件の減少、女性は15件で12件の減少となっています。

なお、死亡事故はありませんでした。

	事故の型	事故数(件)	男性(件)	女性(件)	平均年齢(歳)
通勤災害	転倒	19(28)	8(8)	11(20)	71
	交通事故(道路)	8(10)	5(6)	3(4)	73
	激突	0(1)	0(0)	0(1)	—
	墜落・転落	1(1)	0(0)	1(1)	75
	踏抜き	0(1)	0(0)	0(1)	—
	計	28(41)	13(14)	15(27)	72

令和2年4月以降に発生した「派遣労働会員の業務災害(休業日数4日以上又は死亡)」、「派遣労働会員の通勤災害(休業日数4日以上又は死亡)」については、「全シ協会員専用ページ」の「シルバー派遣事業における労働災害報告」により、各月翌月最終稼働日までにご入力ください。また、労働災害(業務・通勤ともに)が発生しなかった場合も「労働災害未発生報告」を選択のうえ、各項目をご入力ください。

(令和2年4月22日付 2全シ協発第12号により通知済)

室内で屋外で基本をおさえて熱中症予防

気温と湿度が上がり始めるこの時期は、体がまだまだ順応していないため特に危険。暑さに備える知識と体を守る工夫で、熱中症を予防しましょう。

まずはコレ！

① のどが渇いていなくてもこまめに水分補給

1時間ごとや、就寝前に、コップ1杯の水分を補給してください。1日1.2リットルが目安です。汗をかいたら塩分も一緒に補給してください。

室内の基本！

② エアコン活用&こまめに換気

窓とドアなど、風が通るように2カ所以上を開けてこまめに換気をします。エアコンを止める必要はありません。すだれやカーテンで直射日光をカットして、冷房効率アップしてください。

屋外の対策！

③ 暑さを避ける&マスク休憩をとる

日陰を選んだり、日傘や帽子などを活用。マスクを着用しているときは、人との距離が十分とれていれば、外して休憩します。少しでも体調が悪くなったら涼しい場所にすぐ移動してください。

体調管理の実践！

④ 暑さに備えた体づくり

暑くなり始めの今から「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度の運動を毎日30分程度実践。体を暑さに慣らしていきましょう。体調がすぐれないときは、無理せず自宅で静養してください。

(健康長寿カレンダー抜粋)

★ 安全・適正就業強化月間 ★

- ◎ 国が実施する「全国安全週間」に合わせ、7月は「安全・適正就業強化月間」の月です。
職員、会員の皆さんで組織をあげて、事故の撲滅を図り「安心・安全」のシルバー事業の発展を図りましょう。
- 1 安全・適正就業強化月間
令和4年7月1日から令和4年7月31日までとする。
 - 2 全国統一スローガン
いつまでも 働く喜び 無事故から
(令和4年度までの全国共通スローガン)
 - 3 シルバー人材センターで取り組む事項
 - (1) 安全・適正就業委員会の開催、「安全・適正就業対策基本計画」の策定及び事故の要因分析と具体的な防止策の徹底
 - (2) 重篤事故につながる就業の見直し
 - ア 危険・有害な作業は受託しないこと
 - イ 作業別安全・適正就業基準に掲げる安全保護具の完全着用の徹底を図ること
なお、安全帽・墜落制止用器具（安全带）等の安全保護具を未着装のままで就業した場合、申し合わせによって事故の有無に拘わらず就業者には就業停止等の措置を講じるなど安全就業の徹底を図ること
 - ウ 健康チェックや健康講話等の実施、健康診断の積極的な奨励などの健康増進策を図ること
 - (3) ヒヤリ・ハット体験事例を収集し、要因を分析した対策を講じた事故の防止の徹底
 - (4) 損害賠償責任保険事故の防止
 - (5) 就業途上における交通事故の防止
 - ア 交通安全に関する講習会の実施及び交通安全対策の徹底
 - イ 事故多発エリアのロードマップ等の作成
 - ウ 徒歩、自転車及びバイクでの事故の防止の徹底
 - (6) 安全就業対策の総点検の実施
 - ア 就業前、就業後の安全意識等の徹底
 - イ 機械器具の点検と整備の徹底
 - ウ 安全保護具の点検と整備の徹底
 - エ 巡回パトロールの重点実施
 - オ 就業現場の総点検
 - カ 交通安全対策の徹底

(7) 安全就業の研修及び点検

安全就業に係る事例発表を含む研修会、講習会等の実施

(8) 適正就業ガイドラインに沿った業務運営の実施

ア 適正就業ガイドラインを活用した研修・周知（平成28年9月13日付け28全シ協発第125号）

イ 請負又は委任契約の「受注リスト」による点検等について（令和3年9月16日付け事務連絡）

ウ 契約書及び仕様書の作成・取交しの徹底

エ 会員と発注者の間に指揮命令関係が生じる請負契約又は委任契約について、派遣契約への切り替え若しくは職業紹介の実施による雇用

(9) 会員からの安全標語の募集、シルバー人材センター・施設・就業現場等への安全標語、垂れ幕、ノボリ等の掲示などによる会員すべての安全意識の徹底

(10) 会報等への安全意識啓発のための特集記事の掲載

(11) 会員に対して安全意識啓発及び情報の共有化を図るための資料等の配付など

(12) 月間中における「安全意識高揚の日」の設定及び安全表彰の実施

4 シルバー人材センター連合本部で取り組む事項

(1) シルバー人材センターに対する指導・助言

(2) 安全大会の実施及び安全表彰の実施

(3) 安全・適正就業に関する研修会、講習会等の実施

(4) 巡回パトロールの実施

(5) シルバー人材センターの月間行事の実施についての指導・援助

(6) 安全就業及び適正就業に係る取組事例等の情報収集、作成・提供

安全・適正就業強化月間における実施と併せて年間計画を策定し、効果的に取り組みましょう



大阪府における安全就業への取り組み

令和4年3月31日現在

1. 大阪府における概況

- ・センター数 43センター
- ・会員数 44,781人（男 29,587人 女 15,194人）
- ・粗入会率 1.6%（男 2.4% 女 0.9%）
- ・受注件数 117,599（請負・委任 112,483件 派遣5,116件）
- ・契約金額 20,539,982千円
（請負・委任 17,184,860千円 派遣3,355,122件）
- ・就業実人員 36,230人（請負・委任 33,207人 派遣5,173人）
- ・就業率 請負・委任 74.2% 派遣 62.3%
- ・就業延人員 4,679,445人
（請負・委任 4,043,776人 派遣635,669人）

2. 大阪における傷害事故発生状況（平成29年～令和3年度）

	傷害事故			内重篤事故
	就業中	途上	計	
平成29年度	179	82	261	2
平成30年度	179	95	274	0
令和元年度	184	69	253	1
令和2年度	165	81	246	1
令和3年度	177	75	252	1

就業中の事故件数については、前年に比して増加しましたが、途上での事故件数は少しですが減少しました。結果全体では増加しています。

途上での事故は減少していますが、自転車での事故割合が多くなっており、自転車同士の接触事故や単独での転倒事故等が増えています。

信号のない交差点では、特に注意するよう指導しています。

3. 大阪府連合における安全・適正就業への取り組み

(1) 安全・適正就業部会について

令和3年度は1回しか開催できませんでしたが、例年は年2回開催し、1回目は7月に「安全・適正就業パトロール」について、2回目は年明けの2月に開催し「安全・適正就業基本計画、年次計画」について検討しています。

常に、事故防止策・安全対策を念頭に置き、安全就業、適正就業の徹底を図っていますが、もし事故が起これば速やかに対応し、重篤事故については、事故原因の状況把握・解明に務めるとともに、会員・職員に周知し、センター全体で情報の共有化を図っています。

又、就業する上においては、「健康」であることが第一なので、日頃から無理のな

い就業、及び、年1回の健康診断の受診を勧奨しています。

(2) 安全就業大会の開催について

安全就業大会は、7月の安全・適正就業強化月間に併せて開催しています。

令和2年度はコロナウィルスの感染拡大により開催できませんでしたが、令和3年度は7月19日に2年ぶりに開催しました。

内容は、「令和2年度傷害・賠償事故発生状況」、「令和3年度安全・適正就業基本計画、年次計画」、「安全パトロール実施要領」の説明の後、基調講演として、講師の大阪府警察本部交通課の山下警視から「自転車の交通事故の防止について」、大阪労働局需給調整事業部の西田指導官から「適正就業等について」のテーマでそれぞれ、ご講演いただきました。最後に、参加者全員で「安全の誓い」を唱和し、就業中・途上での事故ゼロを目指す事を誓いました。



(3) 安全・適正就業推進員会議の開催について

安全・適正就業推進員会議は毎年2月に開催しています。参加対象

者は、各センターの安全・適正就業推進員です。安全大会同様、2年ぶりの開催となりましたが、蔓延防止等重点措置が適用されている時期でしたので、リモートで開催しました。内容は、令和3年度上半期の「傷害・賠償事故発生状況」、「令和4年度安全・適正就業基本計画、年次計画」、「安全パトロールの実施報告」及び基調講演として、講師の大阪労働局労働基準部の高野専門官から「エイジフレンドリーガイドライン」のテーマでご講演いただきました。

(4) 安全パトロールの実施について

毎年、9月中旬～12月中旬にかけ、大阪府内全センターを訪問し、就業現場及び契約書等の確認を実施しました。

具体的には以下のとおりです。

- ・適正就業推進のため、事前に提出のあった長時間就業一覧に基づき、契約書・請書・作業使用書等及び自主点検表を確認すると共に、具体的に聴取・指導を実施。
- ・現場訪問は植木剪定作業・除草作業・リサイクルセンターのいずれかを訪問し、作業状況等の確認。

- ・安全講習等各種講習会・研修会の実施状況の確認。
(令和3年度もコロナ禍でほとんど実施できず)



(5) 傷害事故・賠償事故報告について

毎年上半期及び年間事故報告の分析を行い、安全就業大会及び安全適正就業推進員会議において報告を行っています。

特に、20万円以上の高額な賠償事故については、事故事例を踏まえ、安全対策強化を徹底する確認を行っています。

また、センターからの報告にもとづき、各センターに情報提供を行っています。

(6) 今後の取組み及び展望

○「適正就業の徹底」

長期・長時間就業、偽装請負と思われる就業契約の是正

○「危険防止の為の安全対策の徹底」

安全帽・安全帯・安全ロープの装着及び自転車事故防止の徹底

○「会員の健康管理の徹底」

年1回の健康診断の受診を勧奨する

○「危険有害な就業受注の排除徹底」

○「熱中症対策等体調管理」

「爆発的流行疾患等への対策（コロナ等）」

大阪府シルバー人材センター協議会様からの報告でした。
詳細なご報告、誠にありがとうございました。

💧熱中症になりにくいからだへ💧暑熱順化のススメ

● STOP！熱中症 クールワークキャンペーン 令和4年5月1日から9月30日まで

熱中症は、早めに予防対策をとることで防ぐことができます。

しかし、職場における熱中症では、からだ暑さに慣れないまま仕事をしていて死亡につながる事例が多く見られています。

●【事例】

工事現場で気温32.9度のなか交通誘導をしていた40代警備員が、道路の側溝に転落しているところを発見された。救急搬送されたが、熱中症により死亡。作業に従事しはじめてから2日目であった。

●暑熱順化とは、暑さからからだを慣らすこと。

作業にあたる2週間くらい前より意識して汗をかくようにして、からだを暑さに慣らし行きましょう。(ウォーキングや入浴が効果的です。)

また、4日以上連続などでしばらく作業から離れてしまうと、暑熱順化したからだも元に戻るため、休暇期間があった場合は注意しましょう。 (安全衛生かべしんぶん抜粋 中央労働災害防止協会)

編集後記

都内にある自宅の小さな庭には梅、柿、蜜柑と3つの実のなる木があります。毎年、梅は青梅を梅シロップにするのですが、今年は梅の収穫時期にちょっと忙しくしていたら、いつの間にか完熟となってしまう、完熟梅をどうするか？頭を悩ませているところです。全シ協では毎年、無事故で安全に関する各種取組を積極的に行っているセンター等を表彰しています。今年度は1連合を含む23団体が受賞され、二度目の優秀賞に輝いたところも2センターありました。受賞されたセンター、連合のみなさま、おめでとうございます。これも日頃からセンター、連合が中心となり、会員のみなさま一人ひとりが安全に対して、積極的に取り組んでいただいた賜物だと思います。この受賞を励みにこれからも常に安全を意識し、シルバー事業遂行の根幹をなす「安全就業」に努めていただき、無事故が継続することを願っています。(松山)

ゴールデンウィーク中に妻が39度の熱を出しました。元々疲労するとよく発熱していたのでいつものことかと様子を見ていたのですが翌日も下がらず、近所のクリニックで検査を受け陽性が判明しました。日頃から感染対策には相当に気を付けていたので「なぜ私が？」と落胆していました。同居している私も濃厚接種者となり7日間自宅待機の指示を受け、部屋も別々、食事などすべて隔離で過ごしていましたが、我が家の双子猫がお構いなしに行き来しお互いに甘え、ウイルスを媒介していたようで、、、2～3日後には私も喉がイガイガ、発熱し、コロナ陽性となってしまいました。その日から10日間自宅療養となり、結局2週間以上、一步も外に出ることなく過ごしました。症状は妻は4日間39度の熱が下がらず、その後順調に回復、私は37度台の熱が1週間以上続き、倦怠感はまだ続いています。二人とも共通していたのは「喉の痛み」と「咳」ですが、ワクチンを3回打っていることと、体力があるからこそ、この程度で済んだのでしょう。自宅療養に関しては、東京都や区の保健所から電話やメールで体調の確認をしてくださり、また10日分の食料品等の支援物資をいただき大変ありがたかったです。うちは大人二人の自宅療養なので困ることはなかったのですが、小さなお子さんやお年寄りのいらっしゃるご家庭はさぞかし大変なことでしょう。シルバー関係者のコロナ感染については今も毎日のように全国から報告があります。少しずつ減少傾向にはありますが、後遺症に苦しんでいる方も多いようですので感染予防を引き続き継続して、また、熱中症にも気を付けてご活躍してください。心配メールをいただいた皆さん、ありがとうございました。お騒がせいたしました。(高木)